

特集:魚の棲む川へ。

「瀬と淵」、そして「水辺の植物」。

魚の生息場所と生息量には密接な関係がある。

魚類の生息場所を類型化し、これらと魚類の生息量との関係を調べたところ、両者には定量的な関係があることが分かった。

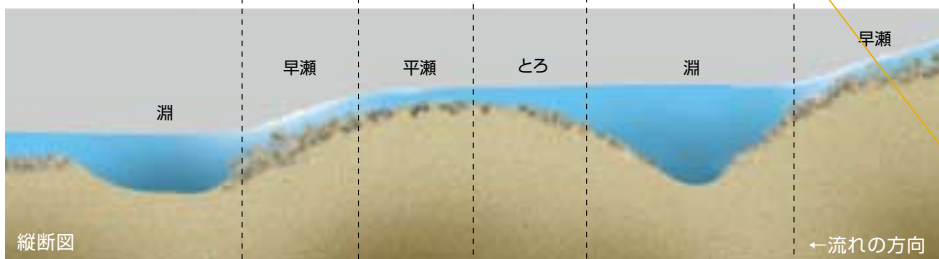
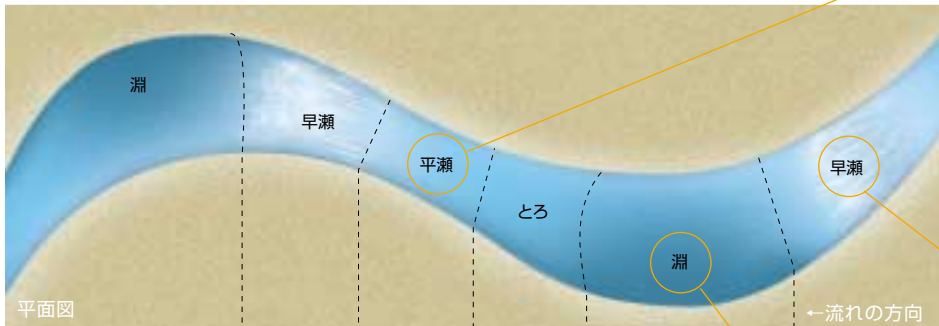
生息量の多少はまず「早瀬、淵」および「平瀬、とろ」で二分され、後者はさらに水際植生率の大小によって区分される。

結果としては、「早瀬」「淵」における生息量は他のタイプに比べて有意に大きく、実験河川のような小規模河川でも瀬と淵の生息量に及ぼす効果が確認できた。



川の基本的な形態と瀬と淵との関係の概念図

川が蛇行していると、一蛇行の中に淵、とろ、平瀬、早瀬という典型的な生息場所が出現することが多い。(右写真は自然共生研究センターハビタット研究ゾーン)



平瀬



- 淵の下流部にあたり、河床勾配はそれほど大きくない。
- 沈み石帯が多い。

早瀬



- 淵への落ち込み部で、局所的な河床勾配が大きい。
- 浮き石帯が多い。

淵



- 底質は様々。
- 実験河川では砂泥が多い。

区分	瀬		とろ	淵
	早瀬	平瀬		
水深	浅い	浅い	やや深い	深い
水面	白波が立つ	しわのような波	波立たない	波立たない
流速	最も速い	速い	遅い	遅い
底質	浮き石	沈み石	砂や礫	砂